

慶熙大学の新たな挑戦と世界市民教育

はじめに

1. 概要
2. 国際交流を中心に
3. 交換学生と短期留学制度
4. 国際交流院
5. 世界平和への活動
6. マニタスカレッジ (Humanitas College)
7. 地球共同体のための活動

はじめに

- 学問的な優秀性とグローバルな尊厳が調和した教育を通じ、“創造的人類愛”を体得したグローバルな人材を養成し、融合教育を実施。
- 生命と宇宙、人間と歴史文明の総合的な省察を土台にした基礎教養教育、学問と学問、学問と現実が互いに交流し、コミュニケーションする教育・研究の世界的な協力ネットワークの構築。
- 慶熙大学校の歴史と伝統を継承した特性教育を通じ、“普遍的人間愛を創造的に実践している未来の世界、未来の慶熙”を養成。これをもとに、“和合と創造の未来社会”を実現するグローバル実践に捧げる。そのため全世界が疎通する社会貢献の国際ハブを造成。
- 世界の市民社会と国際機関、政府、財界、言論界、学界の多国間及びグローバルな調和を手配し、人類の福利の増進に寄与する社会貢献の新しいパラダイムを創造。

1 概要

創学精神と教育理念：文化世界の創造

- 競争・国・民族・宗教・理念・階級の専有権を越えて人類が平和に共存・公営の地域共同社会。
- 精神的に美しく、物質的に豊かで、人間的に価値がある社会。
- 人間の努力によって、すべての対立的なものが葛藤を解消し、お互いに調和を成すの世界。
- 教訓：学園の民主化、思想の民主化、生活の民主化。

2 国際交流を中心に

2-1 Global Collaborative

- 21世紀の多文化の時代を迎え、教育・研究・実践が調和した大学教育の新しいパラダイムを年始するためのもの。
- 教育・研究・実践の次元で境界を超えた相互交流・協カプログラムを確立して文化的多様性を志向し、人類の共同の価値と普遍的な知識を模索する前向き試み。
- ペンシルベイニア大学の交流協カから出発したGlobal Collaborativeは、2008年に中国の北京大学、日本の立命館大学、ロシアのモスクワ国立大学、国連の経済社会局、世界NGO協議体であるCoNGOが新たに参加して拡大改編された。

2-2 Global Studio Network (GSN)

- 未来の調査と産業、そして文明の総合的理解をもとに交流し調和して作成する実践的な知識人を養成が目的。
- 世界の教育、研究、文化と文明をリードする中核都市にスタジオを設置し、現地の有識者の講義や特別講義、重要な学術会議をオンラインで中継することにより、全世界の学者や学生、市民が最高レベルの研究・教育・実践の最新動向をリアルタイムに共有できるようにするシステム。
- GSNは、2010年にニューヨークと北京にスタジオを開設し、2012年までに順次、海外のスタジオを設置する計画。2015年頃であれば、国内外の大学や関連機関が自発的に参加する安定した段階で定着させ、長期的には正規学期に発展させて参加し、大学間の交流協力関係を拡大する計画。

3。交換学生や短期留学制度

3-1 交換学生制度

- **世界65カ国380校と姉妹提携を結び、毎学期へ交換留学生を派遣し、様々な形の奨学金を支援し、期間は1学期または1年の期間で専攻別の交換**

UMAP、INU、ISEP、SAFなど世界有数の大学のネットワークを活用することで、韓国・日本・中国・ヨーロッパ・アメリカ地域の大学で自由に単位を取得することができる豊富な機会を提供

- **毎年3月と9月ごろの2回、本学のホームページや国際交流処ホームページ (<http://oiak.khu.ac.kr>) 掲示板で発表し、毎年500人余りを選抜派遣します。英語圏交換学生の場合、クラブ (<http://club.khu.ac.kr/goabroad>) を運営して姉妹、学校別の情報を提供**

3-2特別交換留学生派遣制度 (Study Abroad)

- 学術交流及び協定により学生たちが自費でスハクへ単位を認められる制度。学生たちに、より多くの海外留学の機会を提供するために用意。派遣学生は、交換学生と同等の地位を持ち、1学期または1年間の正規課程を受講。

3-3海外短期研修

- 休みを利用した2ヶ月未満の海外短期研修制度。専攻研修・語学研修・体育研修・文化研修・インターン研修など。

3-4複数学位制度（DualDegree）と単位交流

- 複数学位協定を締結した大学と慶熙大学校共同名義で2つの学位をそれぞれ授与する制度。
- 2002年、米国のセントラルコネチカット州立大学（CCSU）と協定を締結した以来、フランスのエコールポリテク、日本の立命館アジア太平洋大学（APU）など世界の著名大学で協定を拡大し、学生たちの国際化能力を向上させている。
- 共同学位制度（Joint Degree）で、両大学人で一つの学位を授与するプログラムも実施しており、今後さらに拡大していく計画。
- 4年以内に慶熙大学校と外国の大学の学位を同時に取得
複数の学位を取得するために、外国の大学で数学の学生は、在学期間中の本学学生としての学籍を保有。

3-5韓日政府の共同国費奨学生日本の工科大学のプログラム

- 日本の工科大学に派遣される韓日、政府の共同国費奨学生の予備教育コース。
- 修了後、東京大学・京大など日本の23の大手工科大学に入学し大学生生活をする。国際教育院では、正規の教育課程のほか、日本現地の理解と適応を支援するため、日本文化院訪問、日本の学生との懇談会と合宿教育を実施

3-6 文化・スポーツ交流

- 韓国文化の優秀性を知らせるために、海外の姉妹大学との姉妹機関に文化・スポーツチームを派遣して支援するプログラムです。サークルやスポーツチームの相互派遣し、両国の学生たちは文化・スポーツ交流を通じて友情を築き、相互理解を広げる。

4 国際教育院

4-1 国際教育院の概要

- 韓国語教育課程は、1993年に開始し、大韓民国政府との主要な機関の韓国語と文化の研修を委託し、実施している専門機関。
- 1993年“大韓民国政府招請の外国人奨学生韓国語プログラム”委託教育機関として選定され、毎年、世界80カ国6,000人余りの在外同胞と外国人学生たちに韓国語と韓国文化を教育する。
- 中国北京大学に無試験で進学できる過程を運営。

4-2 外国人のための韓国語教育プログラム

- 韓国語教員資格を所持している専門講師陣が、外国人を対象に韓国語を教える。
- 担任制度と共に生活・進学相談プログラムを運営。
- 特に大学（院）生、1:1で接続されている“韓国語ヘルパー制度”は、外国人学生たちが韓国の生活によく適応して韓国語と韓国文化に親しむことができる重要な役割。

4-3 外国人学生のためのサポートセンター（CISS）

- 純粋な外国人の入学生と交換学生、政府招請奨学生の学校生活に必要な全般的な情報と支援を与えるために、外国人支援センター（Center for International Students & Scholars : CISS）を運営

4-4 留学生教育支援チーム（1）

- グローバル時代の慶熙大の社会的役割を忠実にして、留学生の学業優秀性を高めるために2010年韓国の大学では最初に設立。
- 教育サポートの専門教授が学術に関する体系的な相談を介して慶熙大のコースワークに軟着陸できる代案を提示
- 留学生対象の教育情報や学習状況に関する情報を蓄積し、教養課程以降学部で活用できる情報を構築。
- 留学生専用科目を開発して、留学生が効率的に受講することができる基盤を用意してフマナタスカレッジの中心科目、配分履修に留学生専用の科目を開設。

4-4 留学生教育支援チーム（2）

- 留学生たちがオフラインの講義受講時の不完全な講義の理解を補完するための適切な教科の韓国語と外国語バイリンガルebookと重要な部分を映像で撮影してバイリンガル字幕をサポートしている映像サービスを実施。
- これにより、留学生たちは、時間と空間に拘らず、オフライン講義を補完することができる機会を持つようにする。
- 留学生の学業能力を養うための様々な小グループ活動を実施。
- 現在の小グループ活動には、専攻領域別専門用語、中韓メディアの監視、HWP実習、韓国文化ドキュメンタリー録音と字幕制作などが運営。
- 学習能力が劣っていたり、補完が必要な留学生を対象に自費負担の原則から、放課後学習を実施。
このコースでは、大学の講義受講のための様々な実用的な戦略とテクニックを学習して、最終的に学習能力を育成。

5. 世界平和への活動

5-1 Global Service Corps発足

- “学問と平和”の伝統を継承し、21C、大学の新たな社会貢献活動を展開しようとGlobal Service Corpsが2010年5月に発足。
- グローバル共有と貢献のためのGlobal Praxis、地域社会と一緒にするCommunity Partnerships、医療を通じた分かち合いの実践Medical Service Program、時間と空間を超越したOn-line Service Programで構成。

5-2 国連世界平和の日の制定を提案

- 1981年のコスタリカのサンホセで、世界大学総長会（IAUP）第6回総会が開かれ、会長を務めていた創設者ジョヨウンシク博士は、平和の守護のために国連が世界平和の日と年を制定するようにしようという“コスタリカ決議文”を提案し、全会一致で可決した。

国連は157カ国の全会一致の賛成で1986年を“世界平和の年”で、毎年9月第3火曜日を“世界平和の日”と宣言した。

5-3世界平和の日30周年記念UNAI-慶国際会議

- 世界平和の日30周年を迎え慶熙大学校は(2011.9.15)、UN傘下の高等教育機関 (UN AcademicImpact、UNAI) と共同で国際会議を開催。テーマは“平和の未来大学の未来 (Give Peace Another Chance)

5-4世界の平和名誉理事委嘱

- 学校法人慶学園はハビエル・ペレスにケヤル (Javier Perez de Cuellar) とブトロス・ブトロス・ガリ (Boutros Boutros-Ghali) 前国連事務総長を法人理事会、世界平和の名誉理事 (永久) に委嘱。

5-5 Global Initiative 100 for Neo-Renaissance

- “Global Initiative 100”は、ネオ・ルネッサンスをサポートしている認識共同体である。ソルミハイルゴルバチョフ (Mikhail S. Gorbachev)、ブトロス・ブトロス・ガリ (Boutros Boutros-Ghali) などの国際社会をリードする政治指導者、宗教指導者、ノーベル賞受賞者、学者、ジャーナリスト、市民運動家100人が参加。

5-6 世界の大学総長会（IAUP）を創設

- 3年ごとに定期総会を開催し、現在800人余りの世界の大学総長が会員として登録。

5-7 明るい社会運動（GCS）

- 1975年ジョヨウンシク先生が提案することで、全世界を舞台に展開されている社会運動。英語ではGCS、すなわち Goodwill、Cooperation、Serviceで表記。

5-8 世界平和大百科事典（World Encyclopedia of Peace）出版

- 国連世界平和の日（1986）を記念して世界で初めて世界平和大百科事典（World Encyclopedia of Peace）の英語版を1987年に出版。人類の平和の精神を鼓吹し、若い世代の平和教育に寄与するという目的。
- 著述作業には、世界の碩学とUNESCO、FAOをはじめとする100以上の国際機関が参加。

5-9 ユネスコ平和教育賞受賞

- ユネスコ（UNESCO）は、1993年に慶熙大学がこれまで展開してきた人類の平和運動を高く評価して、“ユネスコ平和教育賞”を発表。韓国でユネスコ平和教育賞を受けたのは、慶熙大学校（平和福祉大学院）が初め。

5-10 ネオルネッサンス運動を展開

- ネオルネッサンス運動の思想的ルーツは、〈文化世界の創造〉を授業で慶熙大学校を設立して以来、1960年代には農村啓蒙とジャルサルギ運動を、1970年代には明るい社会運動を展開。
- 1980年代には冷戦の危機状況では、世界の平和運動に重点をおき、1990年代には、全人類が平和共栄する社会を構築するためのネオルネッサンス運動を発足させた。

5-11 1999ソウルNGO世界大会の開催

- 21世紀の市民社会を迎え、市民団体の役割と重要性を認識し、1999ソウルNGO世界大会を開催。
- この大会は、21世紀のNGOの役割”をテーマに、人類社会が抱えている問題を総合的に診断し、解決策と、新しい千年のビジョンを模索した。
- NGOが自発的に主導した世界初の大会で108カ国で1万3000人余りが参加

5-12世界の平和公園(GNC)

- 1999ソウルNGO世界大会のフォローアップ事業としてブトロス・ブトロス - ガリ前国連事務総長とコフィ・アナン前国連事務総長の認可の下、2004年に国連平和公園とGlobal NGO Complex (GNC) の建設に着手。
- GNCは、平和公園内にあり、国連の平和公園には、国際キャンパス内の10万坪規模で建設される予定。
- 方向

世界市民社会の交流・協力、連帯活動の基盤
国連、国際機関、政府、NGO、企業、学界、市民等の多国間対話と
疎通、連帯の場

NGO相互の連携と結束を強化するための情報、資料の提供
市民社会、文化芸術、企業など社会の各部門と研究協力関係の構築
国際NGOネットワークづくり

人間中心のグローバル・ガバナンスを模索

国・民族・理念・宗教などを超越した対話と協力の場を提供
地球共同社会 (Global Common Society) の実装

5-13 Peace BAR Festival

- 現代社会に蔓延した葛藤と対立の壁を越えて平和と共栄の普遍的価値を志向する人類和合の祭り。Global NGO Complex建設記念式典が開催された2004年から開始。
- BARは慶熙大学校が過去60年間追求してきたspiritually Beautiful、materially Affluent、humanly Rewardingの略字。
- Peace BAR Festivalは開かれ、文化芸術祭、社会貢献活動、青年フォーラムなど、さまざまなプログラムを使用し、学界、国連、NGO、Business Partnership、一般市民の参加と交流・協力を導いて平和共栄の人類普遍の価値に基づいた人類コミュニティを指向。

5-14平和ワークショップ”を開催

- 1981年第36回国連総会で制定された“国連世界平和の日”を記念して毎年、平和会議を開催。1982年9月に第1回会合を開いた後、2009年には“第28周年”国連世界平和の日“記念慶平和ワークショップ”を開催

5-15 世界の市民フォーラム（World Civic Forum）

- “学問と平和”の伝統を築いてきた慶熙大学の歴史は、開校60周年を迎え、世界の市民フォーラム（World Civic Forum：WCF）の創設につながった

5-16 未来文明院の発足

- 未来文明院は平和会議のほか、人間と文明、人類の歴史に対する省察をもとに、“人間と社会の新たな企画と人類社会の普遍的価値の確立”のための学術会議を定期的を開催。
- 現代の生活と文明現象の政治・経済・社会・文化・科学など学際的間の研究を介して汎地球的交流・協力の場を設けることで、オルタナティブな文明の言説形成を促進。

6. マニタスカレッジ (Humanitas College)

6-1 設立の背景

- 2011年度から大学教育の本質の目的を取り戻し、学部教養教育の面目を一新するため、教養教育プログラムを全面的に改編してフマニタスカレッジを立ち上げた。
- このプログラムは、大学内外の時代的に抑圧され、深刻な歪みや変質を余儀なくされている大学教育の基本的な役割と目的を再確認し、教養教育の品格を回復し、その教育の水準を高めるために発足。
- 2011年度入学生から必須科目の“中核教科”2科目を新設、1学期には“人間の価値探索”、2学期には“私たちが住む世界”、社会活動を中心にする“市民教育”が、それぞれ3時間3単位の授業で開設。

6-2フマニタスカレッジ教養教育の志向点

- 人間、社会、自然、歴史の多角的理解の方法を幅広く接することができ、批判的であり、好奇心にあふれる研究。
- 合理的説明、関連した主張は、説得力のある解釈を追求する能力を育て、科学的思考習慣を涵養する教育の志向
- 自分の住む社会の民主的原則を守って発展させる市民の力量を悟るようにする教育。
- 国際社会と協力し、世界の政治的、社会的、文化的多様性と歴史的経験についての理解を広げ人類共通の関心事を認識するとともに、地球社会の共通の問題を解いていく、世界市民的力量を育つ。
- 芸術的な創造性を尊重する能力、記憶を覚えて、社会の歴史的経験を共有することで、良い話の社会的流通を促進するコミュニケーション、伝達、表現の能力、新しい技術のメディアを有効にする文化的能力を高める。

6-3 市民教育

＜市民教育が志向する市民＞

- 自由民主主義を支える民主主義社会を発展させる能力を持った合理的な批判的民主市民。
- 共同体生活を維持するために必要な信頼性、善意、共感、思いやり、奉仕、結束の徳目の温かい隣人。
- 一国の市民であると同時に、地球社会を考える世界市民。

＜現場活動＞

- 私たちの周りの生活の中で行われるすべてのボランティア活動。3-4人のグループの活動。
- 批判的に国家権力を監視する活動や権利擁護活動、社会福祉活動、オルタナティブな経済活動、地域社会活動、教育活動、文化芸術活動、人類の平和と地球の生態系保全活動、平和活動等

6-4 地球社会奉仕団（GSC）の発足

- 地球社会共同体は、（Global Service Corps）は、大学の社会的責任とグローバルな尊厳を高めるためのグローバルなサービスネットワーク。

6-5 Global Praxis Academy

- 大学の教育と実践が融合した正規のプログラムでフマニタスカレッジ（Humanitas College）の市民教育と社会奉仕を連携した教養大学プログラム。
- 現行サービス単位制度を改善し、GSCの実践プログラムを有効にして、在学生の世界的な実践活動を振興させることが目的。

6-6イスタンブール（多文化理解）プロジェクト

- いくつかの文明/文化を理解するのに役立つ地域を直接訪問して、私たちが住んでいる世界についての理解の幅を広げようとするプログラム。1年生を対象に選抜

7 地球共同体ための実践活動

7-1 将来の文明のための地球規模の学術コミュニティのGlobal Research Network

様々な機関との協力を通じた専門的研究に、より良い人間社会を実現するための実践的学術・研究ネットワーク。

7-2 人間社会を直すGlobal Medical Service Corps

- 慶熙医療院、慶熙大学校、医学、漢方医学、歯学、薬学、看護学などの医科学系の幅広い疎通と協力を通じ、大学、医療、社会貢献

7-3 地球規模の開かれたコミュニティOn-Line

Service Program

- 空間と時間を超越したオンラインエリア、大学の教育、研究、医療分譲の社会貢献ビジョンと有機的な結合を介し、地域や国際社会が疎通して和合。
- 質の高い教育コンテンツを様々なチャネル（地上波TV、オンライン、IPTV、モバイル機器）を介して提供。
Global Studio Networkとギョンフイサイボ大学との連携事業の推進
・市民人文学講座のオンラインサービス。

7-4 国連/国際機関のインターンシッププログラム

- 在校生たちが国際化マインドを育て、国際社会のリーダーに成長できるように体験の機会を提供するプログラム。慶熙大と国連の長年の交流協力の歴史をもとに開設され、学部生も参加可能。
- 2006年にプログラムが始まって以来、現在までに約40人の学生がインターンシップを行った。その中の2人の学生は、国連の正式職員として採用されて働いた。

7-5海外奉仕団

- 学生支援先で主管して、休みを活用した短期集中海外ボランティアプログラム。これまで、ベトナム・中国・マレーシア・ウズベキスタン・インドなどの国に定期的に海外奉仕団を派遣した。毎年参加人数と派遣地域が増える傾向。

7-6 ユネスコとのウォークキャンプ

- 言語と宗教、人種の違いを超えて地域社会の変化と環境問題の解決を模索する国際的なボランティアプログラム。
- ユネスコ韓国委員会の協力を得て、未来文明院が主催し、参加学生には、ネオルネッサンス奨学ボランティア奨学金が支払われる。

7-7 グローバルNGO探訪

- 在校生たちが夏季と冬季休暇を活用し、世界NGOを探訪して活動状況を把握して報告書を作成する短期集中プログラム。学生たちは、人類社会に貢献する世界公共機関とNGOの活動状況を詳細に探求

7-8内外の医療サービス

- 慶熙医療院と東西新医学病院の医療スタッフと従業員、学生で構成され、医療奉仕団の活動は疎外された地域、疎外された層、そして医薬品や医療の手助けが切実な海外の多くの国で行われている。